



イラストレーション・ソリマチアキラ

The Overcoat You Should Wear

ドラマ「シャーロック」が語るもの

男のコートを考える

その人となりをシルエットだけで物語るアイテムのコート。

エッセイストで服飾史家の中野香織が現代のシャーロックから男のコートを考える。

文・中野香織

逆光のなか、シルエットだけで「あの人が来た!」とわかる。そのようなときめきを与えてくれる男のシルエットを作るアイテムは、なんといってもコートでしょう。襟が半分立ち上がり、上半身はすっきりとボディに沿いながら、ウエストラインから腰にかけて、足の動きとともに布地が少し翻るほどのエレガントなゆとりがある。そんなクラシックなコートで自分のシグニチャー・シルエットを作ることができれば、秋冬スタイルはほぼ成功と言ってもいいのではないのでしょうか。

例を挙げるなら、ドラマ「シャーロック」のベネディクト・カンバーバッチ。「ベルスタッフ」というブランドの、アイリッシュ・ツイードのダブルのコートがトレードマークですが、裾をなびかせて画面に現れるそのシルエットは360度どの方向から見ても優雅で謎めいていて、ゆえにセクシーな印象を残します。思えばオリジナルのシャ

ーロック・ホームズもケープつきのインヴァネスコートを名探偵のシンボルとしていました。

現代のシャーロックのコートの場合、アップになったときに視線を奪うボタンホールや赤いステッチに、やられた!と思わされますね。シリアスな推理のなかに不意にギャグが入ってくるドラマそのもののように、茶目っ気のある彼の魅力をいっそう輝かせています。

よほど衣装もちの方は別ですが、コートはワンシーズンほぼ毎日、同じものを着るという場合が多いものです。だからその人のものとして目にするコートには、日々の思いや時折のドラマを重ねていくことになります。「シャーロック」の場合、シーズン2、エピソード1「ベルグレイビアの醜聞」に、このコートをめぐる艶っぽいシーンが出てきます。「ヴァージン」という設定になっているシャーロックがただひとり、「ザ・ウーマン」と認

める女、アイリーン・アドラーが、勝負服（パースデー・スーツ）の上に、じかにシャーロックのコートを着るのです。ルプタンの靴をはき、これからゲームをしかけようとする男のコートを直接、肌の上にもたうアイリーンの妖艶な美しさときたら。しかも彼女はどさくさに紛れてポケットにあったシャーロックの携帯電話にちょっとした細工をするんですね。あんなことやってみたい、と妄想が膨らみます（笑）。そんなコート・プレイの記憶が重なるゆえに、シャーロックのコートはいっそうセクシーに見えるんです。

選び抜いたコートでシグニチャー・シルエットを作るだけでなく、コートを着た日々の記憶を、心ふるえるできごとや深い感動で鮮やかに刻んでいく。そんな心がけを忘れずにいれば、名実ともに今シーズンのあなた自身を象徴するコートとなっているでしょう。